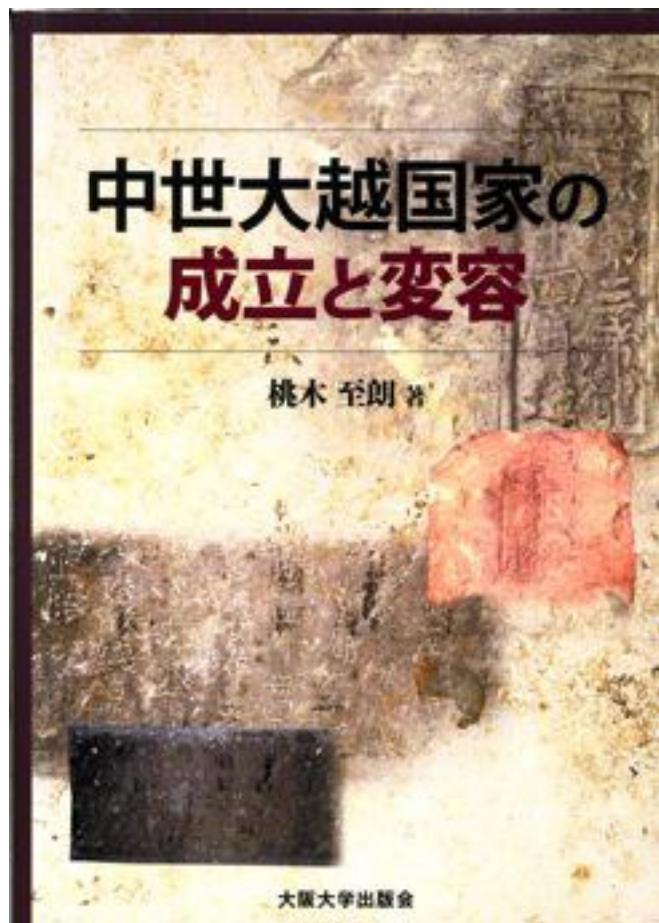


# 中世大越国家の成立と変容



[中世大越国家の成立と変容 下载链接1](#)

著者:桃木至朗

出版者:大阪大学出版会

出版时间:2011-2-28

装帧:平装

isbn:9784872593815

「北部ベトナム」と呼ばれる地域が10世紀に中華帝国の支配から「独立」した。本書は、ベトナム史で「李陳時

代」と呼ばれ、李と陳の二王朝が継起した11—14世紀の社会経済的・政治的变化を研究対象とする。[主要目次] 一・李陳時代の農業社会と土地制度 二・金石文による14世紀の農村社会 三・10—15世紀の南海交易と安南国家 四・10—15世紀の対外関係と帝国意識 五・一家の事業としての李朝 六・李朝の地方支配 七・一族の事業としての陳朝 八・陳朝の地方支配

作者紹介:

大阪大学の桃木至朗教授は、ベトナムを中心に東南アジア史を研究する。「学生時代にベトナム戦争があったのがきっかけだけど、人がやらないマイナーなところをやりたかった。ひねくれてるんですよ」と屈託がない。

大学では一般教養科目の世界史も担当するが、そこには学生の世界史レベルの低さを憂う気持ちがある。「世界史は受験科目の中でも軽視されがちな科目で、さらに東南アジア史となると、詳しく学ぶことはほとんどない。しかし今の日本を考えれば、その地域の歴史を学ぶ意義は大きい」と話す。

今の高校世界史は、近現代史を中心に大まかな基礎知識を教える世界史Aと、通史的な教え方をする世界史Bがあり、ほとんどの生徒はAだけを学ぶ。世界史を受験科目とする生徒はAに引き続いでBを学ぶが、その内容の接続がうまくできていないのが現状だ。桃木さんは「高校のカリキュラムも悪いが、結局暗記中心の勉強法を取られてしまう試験問題を作る大学側にも問題がある」と考え、入学後に補完する形で学生に世界史を教えている。

桃木さんは、大のプロ野球ファンでもある。「ひねくれ者」を自称するだけに、「不人気時代からのパ・リーグファン」と胸を張る。阪神もそんなに好きではないと言うが、巨人は大嫌い。「巨人ファンを公言する者には単位をやらん」と言うこともあったという。全盛期の阪急ブレーブスが大好きで、福本豊、星野伸之らが特に好きだった。「1970年代に活躍した選手に、大橋穰（ゆたか）というのがいてね。昔はオールスターで遠投競争があったんだけど、山本浩二といい勝負をしてた。肩が強い遊撃手で、あのころの阪急は本当に守備がよくて…」と、話しだすと止まらない。

今は忙しくなって球場へ行くことは減ったが、それでも年に数回はパ・リーグの試合を観戦する。

桃木さんは阪大生を、「ドラフトで人気球団に行けなかった選手みたいなもの」と例える。「東大、京大に行けなかったというコンプレックスを持つ学生が多いが、彼らを猛特訓して社会に送り出すシステムがある」という。「日本はあらゆる国や地域の歴史専門家が、高いレベルでそろう国で、それは世界にも誇れる。職人気質的な国民性で、1つの物事を深く探求する人が多いからだろう。しかしその反面で発信力に乏しく、特に国際標準に弱いため、せっかくの研究成果を英語や現地語で表現できないのがもったいない」と話す。だからこそ幅広い知識と発進力を持つ人材の育成に励んでいる。

「アクが強いけど、面白いやつ。それが阪大生だと思う」。マイナー選手を叩き上げ

てメジャーリーガーにする、鬼コーチの横顔を垣間見た。（磯野健一）

## 目録: 序章 対象と問題設定1

### 第一節 地域と時代

1 北部ベトナム地域

2 出発点: 10世紀の「独立」

3 到達点: 15世紀の「黄金時代」

### 第二節 史料

1 漢喃文献

(1) 収集・所蔵機関と目録学・文献学 (2) 編年体史書 (3) 地誌

(4) 詩文 (5) 神話伝説 (6) 仏教文献 (7) その他の近世文献

2 金石・考古史料

3 外国史料

### 第三節 研究史

1 ベトナム

(1) 近代的歴史学と出版

(2) 李陳時代に関する研究史

① 通史と李陳時代史 ② 歴史地理・地方史と人物研究 ③ 経済と社会

④ 国家と統治体制 ⑤ 戦争と外交 ⑥ 宗教・思想と国家=民族意識 ⑦ 文化・芸術

2 フランス東洋学

3 東アジア漢字圏とロシア（旧ソ連）の研究

4 英語圏の学界と東南アジア地域研究

5 日本の学界

### 第四節 本書の問題設定と方法

#### 【第一部 経済構造と国際環境】

##### 第一部の課題

第一章 李陳時代の農業社会と土地制度に関する論点整理

### 第一節 土地分類と田租

1 公田と私田、官田と民田

2 田租の復元

### 第二節 土地の分布・規模と収取形態

1 寄進と経営の規模

2 国家直営田の分布と税役

### 第三節 人口と人民編成

1 開発と人口の変遷

2 人民編成

まとめ

第二章 金石文に見る14世紀の農村社会

##### 序言

第一節 陳朝金石文が伝える寄進情報—内容と記載法—

### 第二節 寄進主体と規模

1 王侯による大規模な寄進

2 在地有力者層による中小規模の寄進

3 女性による寄進

### 第三節 金石文から読み取れるもの

1 国家による人民・土地の把握状況

2 中小規模の寄進と寄進者の地位

3 女性の寄進戦略?

まとめ

第三章 10?15世紀の南海交易と大越=安南国家

### 第一節 独立初期の国際交易

第二節 初期大越=安南国家の交易支配

第三節 交易上の地位低下と内向化?

## 第四節 黎朝前期の大越=安南が琉球のライバルだった可能性

1 領土拡大と新しい輸出品

2 対明朝貢貿易の評価

まとめと展望

## 第四章 10?15世紀の対外関係と国家意識

序言

### 第一節 「北」との関係と「南国」の「歴史」「領域」

1 広がる歴史と神話

2 現実の国土の認識

### 第二節 「南国」の「南」

1 初期大越=安南国家の「南進」

2 チャンバー攻撃の意味

### 第三節 「西」—雲南からラオスへ—

### 第四節 「ベトナム型華夷秩序」の形成

【第二部 中央政権と地方支配】

## 第二部の課題

### 第五章 一家の事業としての李朝 1

序言

### 第一節 系譜の復元

### 第二節 父系王朝の成立と異姓勢力

### 第三節 皇帝の家族・親族の役割

1 男性皇族

2 女性皇族

3 皇帝の妻と母

まとめ

### 第六章 李朝の地方支配

序言

### 第一節 軍事行動と地方支配

1 軍事行動の対象地域と政治統合の地域的枠組

2 軍事行動の主体と機能

### 第二節 地方統治単位の呼称と機能

1 路制に関する諸学説

2 対立を止揚するための仮説

3 上級単位と基礎単位

4 統治拠点としての行宮

### 第三節 地方統治者の称号と機能

1 州の統治者

2 府の統治者

まとめ 269

### 第七章 一族の事業としての陳朝

序言

### 第一節 帝位継承と婚姻

1 帝位継承

2 婚姻

### 第二節 宗室男性の役割

1 上皇・皇帝・皇太子

(1) 上皇制 (2) 聖慈宮 (3) 皇太子

2 高位高官の独占

(1) 宗室宰相制 (2) 宰相となった人々 (3) 制度上の特徴

3 仏教と軍事行動

### 第三節 宗室女性と皇帝の妻たちの役割

1 皇太后と国母

(1) 称号 (2) 活動

2 皇帝の妻 310

3 公主など宗室の女性たち

(1) 称号 (2) 「私通」する公主たち

第四節 父系同族集団の確立と異姓官僚の進出

1 父系同族集団 315

2 宗室の衰退と異姓官僚の進出

(1) 宮廷内抗争と宗室の衰退 (2) 陳朝の異姓勢力

(3) 官僚層の進出と行遣官 (4) 体制変革の動き

第八章 陳朝の地方支配

序言

第一節 地方統治単位の検討

1 路制の定着

(1) 陳初の記録 (2) 『安南志略』

2 陳朝後期の再編

(1) 路の増設と鎮の設置 (2) 陳末の改革

3 最高統治単位の位置づけ

(1) 路と府州 (2) 路官の意味

4 下級単位の継続と変化

(1) 県と郷 (2) 社制

第二節 地方支配と宗室

1 皇帝・上皇の行幸

2 宗室による地方支配

(1) 「郷第」と田庄 (2) 路などの支配

3 重点地域 354

(1) 紅河・ダイ河下流域 (2) 紅河デルタ東縁 (3) 南方地域

4 文人官僚の進出と宗室の後退

(1) 文人官僚と地方官 (2) 異姓勢力の出身地

まとめ

終章 結論と展望

第一節 本書の内容から見た李朝と陳朝

第二節 14世紀の社会変動と胡季?改革

1 陳朝後期の変動と胡季??改革の評価

2 時代区分の基準をどこに置くか

3 14世紀の危機

4 小農経済の成長と明のインパクト

第三節 本書の方法と次世代の研究

参考文献

あとがき

索引

英文要旨

・・・・・ (收起)

[中世大越国家の成立と変容 下载链接1](#)

标签

东南亚

越南史

越南

桃木至朗

日本汉学

日本

历史

评论

---

[中世大越国家の成立と変容 下载链接1](#)

书评

---

[中世大越国家の成立と変容 下载链接1](#)